

9. その他

1) 成医会

(1) 第135回成医会総会は、2018年10月11日（木）、12日（金）の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

柳澤 裕之 教授（環境保健医学講座）

「諸刃の剣としての必須微量元素－亜鉛」

岩楯 公晴 教授（法医学講座）

「第三病院における法医学解剖の現状」

② 宿題報告

佐々木 敬 教授（臨床医学研究所）

「代謝疾患の臨床に役立つ体組成研究」

大橋 十也 教授（遺伝子治療研究部）

「ライソゾーム病の遺伝子治療法の開発」

吉田 和彦 教授（消化器外科）

「兎径部ヘルニアに対する術式の変遷と今後の展望」

小井戸薫雄 准教授（消化器・肝臓内科）

「難治癌である膵癌に対する細胞療法

～本学主導の先進医療の開発にむけて～」

③ 学外研究員の成果報告

土橋 昭 助教（内視鏡科）

「海外留学報告－Mayo Clinicで得られた視点－」

④ シンポジウム

「慈恵医大ブランド」を再考する

司会 穎川 晋（泌尿器科学講座）

近藤 一博（ウイルス学講座）

1. ブランドは伝統と未来を語る

～内外の事例にみるブランド＝“顧客との約束”と“心髄の表現”

京ヶ島弥生（有限会社フロスヴィータ代表取締役）

2. 大学とブランディング 私の視点

～ロックフェラー大学、名古屋大学の経験をもとに

濱口 道成（国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事長）

3. 慈恵医大のブランド－教育・診療

宇都宮一典（糖尿病・代謝・内分泌内科）

4. 慈恵医大のブランド－研究

岡部 正隆（解剖学講座（組織・発生））

5. 総合討論

⑤ パネルディスカッション

「医療現場における働き方を考える」

司会 柳澤 裕之（環境保健医学講座）

井田 博幸（小児科学講座）

1. なぜ今“働き方改革”なのか－本質的な働き方改革について考える－

大西友美子（株式会社ワーク・ライフバランスWLBコンサルタント）

2. 病院サイドから考える働き方改革－医師の労働管理の現状と今後の課題－

川井 真（循環器内科）

3. これからの病院マネジメントによる働き方改革
 －医師事務作業補助者の活用－
 横井由紀枝（附属病院事務部業務課）
 4. 若手医師からみた働き方改革－業務の効率化と技能習得－
 阿久津泰伴（耳鼻咽喉科）
 5. 働き方改革の今－主役が輝くための慈恵品質の就労支援とは－
 石川 智久（患者支援・医療連携センター）
 6. 人生の大変換期の生き方と支え方
 宮城久仁子（看護部）
 7. 総合討論
- (2) 第1264回成医会例会は、2019年2月18日（月）に行われ「平成を振り返る 混迷の時代を生きる ～私の取材ノートから～」が講演のテーマとして選ばれた。司会は柳澤裕之教授（成医会運営委員長）が務め、ジャーナリストである江川紹子氏が講演を行った。
 - (3) 第136回成医会総会については、2019年10月10日（木）、11日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 平成30年4月5日（木）、平成30年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成30年8月1日（水）～3日（金）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。本行事は、昭和50年より開始され、今回で44回目となる。
- (3) 平成30年10月6日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成30年10月13日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成30年10月20日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭43年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成30年10月28日（日）、第114回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成31年1月4日（金）、新年挨拶交歓会を、テレビ会議システムを使用し、全機関にて開催した。
- (8) 平成31年1月31日（木）、平成31年3月末日をもって定年を迎えた宇都宮一典教授、池上雅博教授、鈴木直樹教授、本間定教授、鈴木正章教授、大野岩男教授、加地正伸教授、木村直史教授、佐々木敬教授、磯西成治教授、關根広教授、斎藤三郎教授の退任記念パーティーが行われた。
- (9) 平成31年2月26日（火）、感謝状伝達式を行い、献体者遺族に対して文部科学大臣からの感謝状を手渡した。
- (10) 平成31年3月2日（土）、第94回医学科、第24回看護学科卒業式を挙行了した。

3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」
 慈恵大学の“今”を伝えることをコンセプトに昨年全面カラー版誌面構成にリニューアルし、3年目を迎えた。今年度も2回発行し、同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、医療連携機関、教職員などに送付し、本学の活動をPRした。
- 1) 第31号 特集「相澤孝夫 日本病院会会長インタビュー」
 長野県松本市にある「相澤病院」は中信地方最大の民間病院であり、平昌冬季五輪金メダリストの小平奈緒選手の勤務先としても知られている。同病院理事長の相澤孝夫氏は慈恵OBであり、日本病院会会長も兼務している。各方面から注目される相澤氏に、経営理念や経営哲学、病院経営における課題、医療業界の今後についてインタビューを行い、平成30年8月に発刊した。

- 2) 第32号 特集「情報共有を強化することで、医療の質の向上を目指す」
 附属病院では、画像診断・病理診断・内視鏡診断などの報告書に記載された内容が共有されないことによる医療事故を回避するため、様々な取り組みが行われている。医療の安全を確立するには適切な情報の共有が不可欠だが、その背景と現在の取り組みを特集記事に取り上げ、平成31年2月に発刊した。
- (2) 慈恵ニュース
- 1) 平成29年1月リニューアルされた創刊200号から前号に対して内外から寄せられた評価結果を基に再検証を行った。職員向け学内広報誌「慈恵ニュース」の役割や編集方針を明確化し、企画内容について一部見直しを図った。第202号は「ようこそ！慈恵へ453名の新入職員」第203号は「慈恵の将来、私たちの将来」を特集記事とし、各々平成30年7月、31年1月に発刊した。
- 2) 平成30年6月に「春季労使協議会結果」、平成30年7月に「学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成30年度事業計画」を号外として教職員に配布した。
- (3) 大学ガイドブック
 平成30年5月に受験生向けの学校案内「大学ガイドブック2019」を発行した。本学の医学教育の特色である「診療参加型臨床実習」や「国際交流」の紹介や新カリキュラム概要やサークル活動をはじめとするキャンパスライフについて幅広く掲載した。
- (4) 大学入試ポスター
 平成30年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科、看護学科別に発行し、高等学校、予備校、同窓会長、支部長、学術連絡委員などに送付した。
- (5) 大学公報
 学事、教職員人事、公示、行事、東京慈恵会公報などを取りまとめ、毎月定期的に発行した。
- (6) 大学案内
 平成30年4月に大学案内の別冊を発行した。
- (7) 大学公式ホームページ
- 1) 平成30年4月、遺伝子治療部ページを創設した。
 2) 平成30年5月、診療情報共有改善に向けた具体策の実施を掲載した。
 3) 平成30年7月、研究倫理推進センターを新設した。
 4) 平成30年11月、附属病院ホームページをリニューアル公開した。
 5) 平成30年12月、新橋健診センター、中央棟入退院窓口移転を更新した。
 6) 平成31年1月、同窓登録医検索システムを公開した。
 7) 平成31年3月、診療部門メモリーセンターを追加した。
- 大学公式ホームページへの総閲覧数は対前年比+8万回の1,562万件と増加、総訪問者数も前年度比42万3千人増の299万人に増加した。ホームページ新規作成及び更新依頼は579件であった。依頼部署や関連委員会と連携して掲載内容の充実を図るとともに、本学の特色ある取り組みをステークホルダーである患者、医療機関、学生、受験生などに対し、最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。
- 長年の懸案事項であった附属病院ホームページのリニューアルを行い、平成30年11月1日に公開を行った。新サイトの主な特徴は①デザインの全面刷新(スマートフォン・タブレットなどのデバイスに対応) ②コンテンツの全面見直し(先進的な医療情報を発信する新コンテンツや慈恵の医療を分かりやすく表現したブランド訴求コンテンツの追加) ③新機能の導入(病状・病名から最適な外来を案内する検索機能追加)となっている。今後は新病院、小児・周産期医療センターのオープンに向けWebサイトのメンテナンスを随時行い、平成31年1月までに制作を完了する予定である。

(8) イン트라ネット

「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」、「教職員アンケート」、「学内使用の各種書式」等の更新業務を担当した。

今年度は、「理事長・学長室」からの情報発信を積極的に掲載し、教職員に周知した。また、トップページのアイコンの配列を見直し、重要かつ周知が必要なものを上位に掲載すると共に、what's newへの掲載と更新頻度を高め、最新情報を入手しやすくするよう努めた。広報課のページを整理し、ホームページメンテナンスやオールユーザーメールの送信依頼時に必要な事項やホームページアクセス数を掲載した。西新橋キャンパス再整備計画の周知を目的に専用ページを更新した。

(9) オールユーザーメール

セミナー、シンポジウム、講演会、研修会等の開催通知のほか、教職員のテレビ、ラジオ、講演会等への出演や新聞、雑誌等への掲載情報を中心に703件配信した。